

# コミュニティを機能させるための教育プログラム

橋本 康弘

Yasuhiro Hashimoto

システム創成学専攻

Department of Systems Innovation

大学院の教育に関して、個別の教育プログラムの内容や専攻独自のカリキュラムというものは本質的に重要だろうか？質問を変えれば、専攻を出た学生が持つべきコアコンピタンスというものが現実的に存在し得るだろうか？学生個人・教員個人の個別性を考えたとき、私の答えはネガティブだ。教員は教員個人と学生個人とのコミュニケーションの場として講義やプロジェクトを持ち、研究室を運営し、その中で各自の専門性や段階に応じたスキル・フィロソフィーの伝達を直接行うのであり、大学院教育とはいわば超カスタマイズ化されたサービスであると考えからだ。

では何のために専攻という括りが存在するかと問えば、近い学術的・社会的問題意識を共有するコミュニティとして機能させることが目的であり理想であると答えたい。ただしコミュニティをポジティブに機能させるためには適度な粒度が必要である。そういう意味ではシステム創成という単位は巨大であり、間仕切りの必要性を感じる。教育プログラムを設計する上での一つの視点は、歴史性に囚われない新しい間仕切りが自発性と必然性を持って生じる仕組みを提供することであると考え。